

発行：北恵株式会社 〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14 TEL. 06-6251-6701
http://www.kitakei.jp/

テーマ：住宅の耐震化と国土強靱化計画

量から質への転換による住宅政策により、国民の住宅に対する満足度は高まっている。但し、高い確率で想定されている大都市直下型大震災に対する備えは十分ではない。国は国土強靱化計画を策定し、(社)レジリエンスジャパン推進協議会なる組織も結成された。新しいビジネスチャンスを探る住宅企業も出てきている。

1. 「満足度」が「不満度」を上回った。

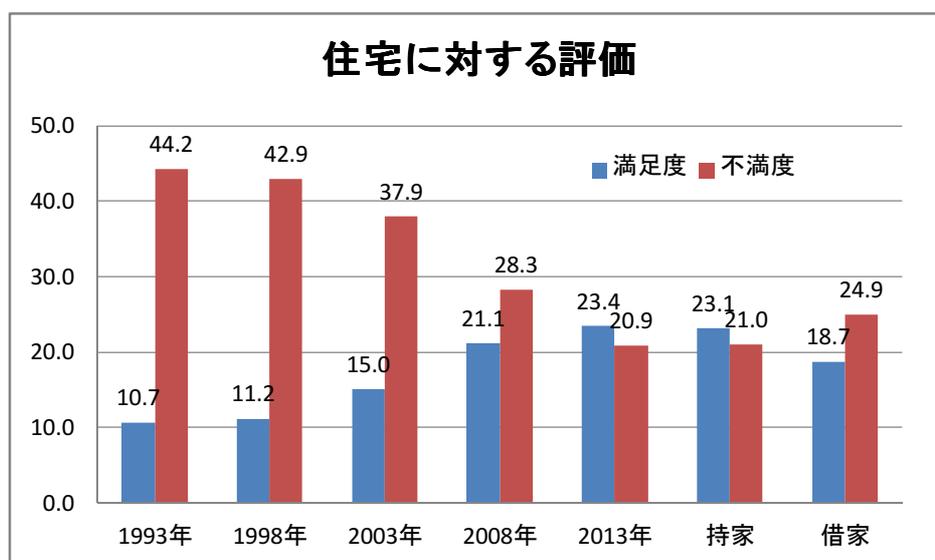
国土交通省が実施する住生活総合調査は、全国の普通世帯の住宅及び居住環境に対する評価、住み替え・改善の意向や実態等を把握し、住宅政策の基礎的資料を得ることを目的としている。

1973年以降、総務省の所管で住宅や世帯の実態を把握する「住宅・土地統計調査」と同年に、5年周期で実施されている。2003年までは、「住宅需要実態調査」として継続的に実施されていたが、2008年調査からは、住宅・土地統計調査との連携を強化し、「住生活総合調査」と名称を改めている。

2013年実施の速報が4月公表された。国民の住宅に関する評価は、調査が始まって以来初めて「満足度」が「不満度」を上回った。

住宅に対する「満足度」は、4段階の評価で「満足」とする層の割合が23.4%という結果に対し、「不満度」は、「非常に不満」(2.5%)と「多少不満」(18.4%)を足した20.9%となっている。

最近の20年間の推移をみると、「不満度」は1993年調査では44.2%に対して「満足度」は10.7%でしかなかった。その後、不満度は順調に改善し、満足度が増加している。特に、2003年からの10年間で大きく改善している。これは、住宅の性能規定や長期優良住宅制度など量から質重視に転換した住宅施策が寄与したと考えられる。

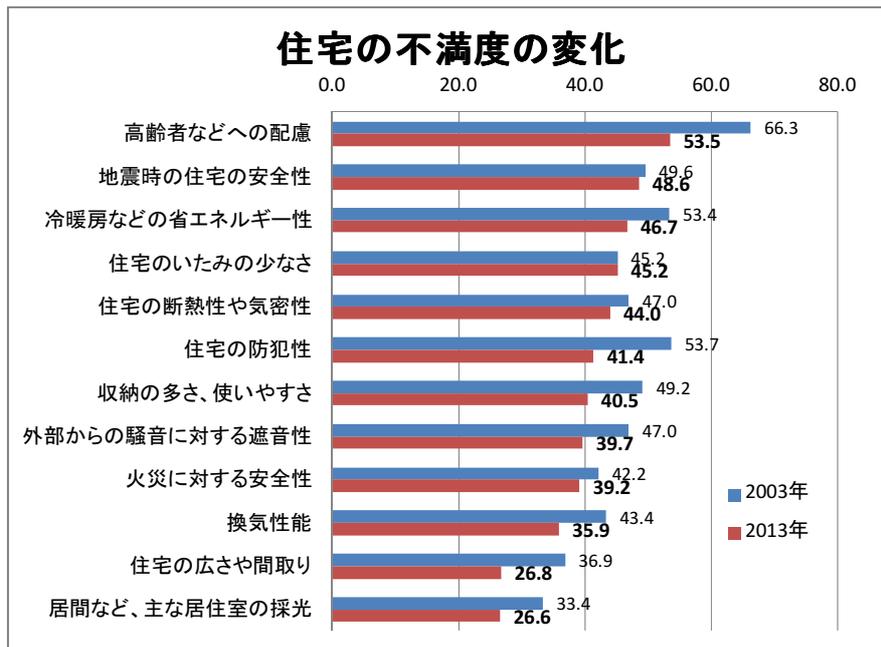


2. 依然高い「地震時の住宅の安全性」への不満

住宅の評価は、17項目について評価されている。全体としての不満度は20%台まで改善しているが、個別項目ごとに見ると、不満度が40%を超える項目が7つある。

「高齢者などへの配慮」が53.5%と最も高く、次いで「地震時の住宅の安全性」が48.6%、「冷暖房などの省エネルギー性」が46.7%、「住宅のいたみの少なさ」が45.2%と続いている。

住宅の評価において2003年の調査と比較して、「高齢者などへの配慮」「住宅の防犯性」や「住宅の広さや間取り」は大きく改善しているが、「住宅のいたみの少なさ」は変化していないし、「地震時の住宅の安全性」もほとんど改善されていない。



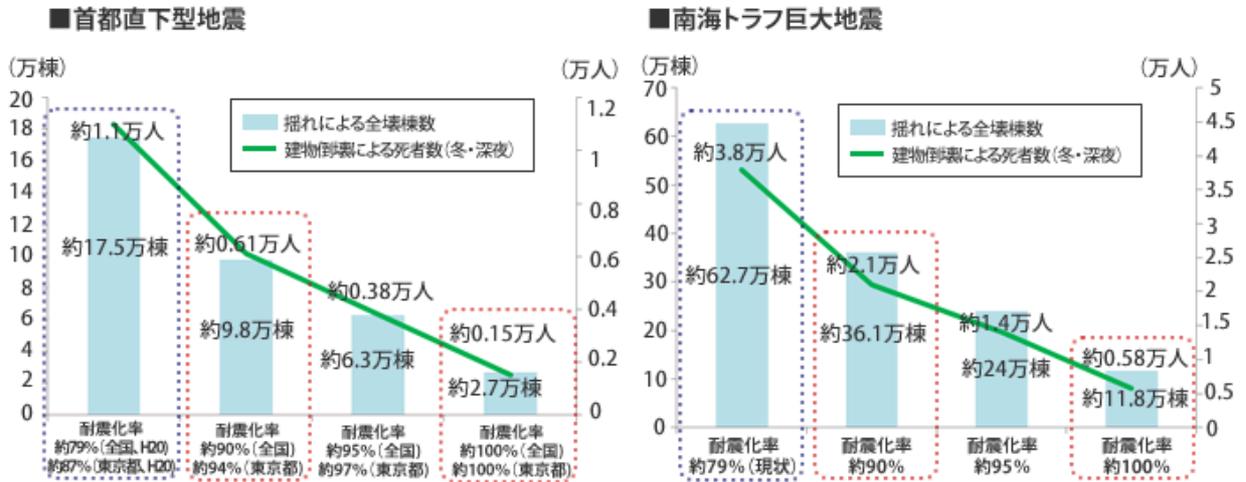
■住宅の耐震化

住宅の耐震性強化は、喫緊の課題になっている。歴史を振り返ると、東日本の太平洋沖でマグニチュード8クラスの巨大地震が起こると、西日本側では南海トラフ地震などの大地震が18年以内に、また首都直下地震に至っては10年以内に必ず発生しているようだ。東日本大震災が発生した今、首都直下地震は2020年までに、南海トラフ地震は2030年までに必ず起こると覚悟し準備しておく必要がある。

しかし、住宅の耐震化は、2008年時点での推計で79%までしか進んでおらず、耐震性のない住宅は1050万戸とされている。そうした中、2013年11月からは改正耐震改修促進法が施行され、病院や学校、ホテル、大型店舗といった不特定多数の人が利用する大規模建築物などに対する耐震診断の実施および結果報告が義務づけられた。また住宅についても支援制度を設けることで、住宅や建築物の耐震化を後押ししている。

新・成長戦略では、2015年までに90%、2020年までに95%まで耐震化を実現するとしているが、2013年の住宅土地実態調査の結果では、1985年以前の持家住宅は1030万戸あり、うち耐震診断をしたのは50万戸にとどまっている。耐震化は、耐震改修と建替えや除却を促進することで可能になるが、まだまだ努力不足といえる状況となっている。

耐震化率を95%にまで高めることで、全壊棟数は半減し、倒壊による死亡者も6割減となるとされている。建築のプロとして、防災の観点から建替え、耐震改修を推進することを見直すべきではないだろうか。



3. 住まいのレジリエンスを考える

※レジリエンス(resilience):「精神的回復力」「抵抗力」「復元力」「耐久力」などとも訳される心理学用語

2014年6月に「国土強靱化基本計画」が閣議決定された。

国土強靱化基本計画は、エネルギー基本計画や国土形成計画、防災基本計画など、国のあらゆる基本計画のなかでも最も上位に位置付けられている。エネルギーや情報・通信、金融、産業、住宅コミュニティ、教育、交通など様々な分野にまたがる多重構造で考えられており、省庁横断で産官学が連携して実現すべき包括事業としている。

国土強靱化基本計画には、既存不適合住宅の建て替えや耐震改修、耐震性に優れた木造建築物の建設などを促進することが明記されている。そして、地方公共団体への支援策や税制の活用、耐震性の高い住宅の建築に向けた研究開発や普及の促進など、ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせて実行が図られている。

産学官民の連携により国土強靱化の推進を図る(社)レジリエンスジャパン推進協議会では、何度地震を経験しても耐震性の落ちない住宅や、非常時にエネルギーや食糧を一カ月間自給しながら安心して暮らせる住宅、快適な睡眠や心の健康を実現する住宅など、レジリエンス住宅のあり方について多岐にわたる幅広い研究や開発が行われている。非常時には回復力や復元力を持つレジリエンス住宅を普及させることで、住宅市場が変貌を遂げる可能性があると考えられている。

※一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会は、国土強靱化担当大臣私的諮問機関「ナショナル・レジリエンス懇談会」の結果を踏まえ、「国土強靱化基本計画」が円滑に達成されるよう、産、学、官、民のオールジャパンでその叢智を結集し、非常時のみならず平時での戦略的活用の方策を創造することにより、公共投資、民間投資が最大限に相乗効果を発揮し、レジリエンス立国を構築していくことを目的として設立された。

キタケイの提供するプライベートブランド

環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”

企画・製造から販売までトータルにプロデュースし、心からご満足いただける住まいづくりをバックアップします



www. sprout-univ. com

超よごれ防止機能付きタイル

らくらくり〜ん

●らくらくり〜んの特徴

- ①タイル表面の汚れが落ちやすい
- ②タイル表面に傷がつきづらい
- ③耐摩耗性に優れていて、滑りづらい

お掃除の手間をとらせない、汚れてもすぐに落ちる新機能付タイル!!

従来の外装床用タイルの汚れは、タイル表面の微細孔に汚れが入り込み、蓄積されることによって起きています。定期的な清掃を繰り返してもわずかに残る汚れの蓄積は、年月の経過とともに微細孔が入り込んだままとなり、比較的メンテナンスが楽と言われるタイルでも、こうして汚れが落ちづらくなります。

TChicの「ナノ クリーン テクノロジー加工」は、タイル表面の小さな孔が高硬度の無機質ガラスで覆うために汚れそのものが付着しづらくなります。また、「ナノ クリーン テクノロジー加工」による無機質ガラスは、モース硬度8と非常に高く、表面に傷がほとんどつきません。そして、タイル表面の耐摩耗性はCLASS4(重歩行用)を誇り、表面の無機質ガラスやゆう薬による色もはがれづらくなっております。

この特徴が今までにない、メンテナンス性を実現し、タイルへの汚れをおさえつつ、清掃のしやすさ、汚れの落ちやすさを可能にしています。新築住宅床用タイルとして、公共施設の外装床用タイルとして、人が多く動く場所などでより効果を発揮します。

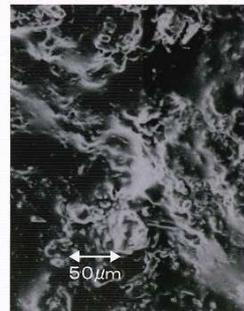
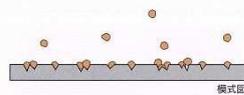
●品質特性

試験項目	規格	結果
スリ傷強度(モース強度)	EN101	8
耐摩耗性	EN154	classIV
耐薬品性	EN122	classAA
吸水率	JIS	0.02%
曲げ破壊荷重	JIS	306N/cm
摩耗減量	JIS	0.03g

●通常タイルと「らくらくり〜ん」の違い

通常タイル

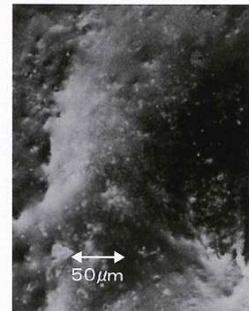
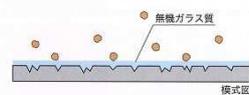
通常のタイルは、表面の小さな孔に汚れが付着し、蓄積されやすいため、汚れが取りづらくなります。



50μm

らくらくり〜ん

ナノ クリーン テクノロジー加工で製作されたタイルは、表面の小さな孔が高硬度の無機質ガラスで覆われているため、汚れが付着しづらくなります。



50μm

「らくらくり〜ん」
施工事例



【特注品】グランフロント大阪/商業施設



【グリット】国内アウトレットモール/商業施設